

(第 130 回) 神奈川研究会議事メモ

開催日	2022 年 6 月 14 日 (火)	出席者	大谷宏・山崎博・松村眞・持田憲秋・
時間	15:00~17:00	敬称略	猪股勲・宮本公明・神田稔久
場所	かながわ県民センター		
資料	小型家電の栄枯盛衰—スマートフォンの影響を出荷統計で見る—		
議題	<p>1. 技術課題</p> <p>小型家電の栄枯盛衰—スマートフォンの影響を出荷統計で見る—</p> <p>課題の概要</p> <p>小型家電の出荷統計の時系列変化を調べて以下のことがわかった</p> <ul style="list-style-type: none">・カメラではフィルムカメラ→デジカメ→スマホと変遷があった・テレビは CRT→液晶の変化が「地デジ化」の政策により推進された・パソコンの外部記録は HDD から半導体メモリに変わりつつある・パソコンはスマホの普及で減少だが在宅勤務の効果で増加も見られる・ビデオはテープ→ディスク→HDD→動画配信と変遷している・変化の原因のかなりは多機能なスマホの浸透によっている・変化の要因で価格の効果も大きい <p>発表者からのコメント</p> <p>小型家電、おもに家庭用情報機器の寿命に関心を持ったのは前職で本業であった銀塩写真が衰退して、その交代選手のコンパクトデジカメがまた衰退してしまったことに起因しています。結局、技術の伸び代が大きかったスマートフォンに行き着いたようですが、スマートフォンの万能ぶりはキラーデバイスと言える多様な使い方が可能で、いまも次々新しい用途が生みだされています。</p> <p>また、旧来の製品が新しい機器に取って代わられることがそこかしこに見られ、このような時代に先見性を持って開発することの重要性を思い知らされました。さらには、昔、磁気テープに撮っていた映画や番組がインターネットからのダウンロードに置き換わったというのは、今の時代を象徴する変化だと思います。</p> <p>このような時代になにが企業にとって重要な議論にも大事なポイントがあったと思います。昔はソニーのウォークマンのような画期的な製品を出せる会社があったのに、いまは日本のモノ作りがまるで元気がないのは、そのようなリーダーが居ない社会なのか、居ても権限をふるう立場に立ってないからなのか、もうすこし考えてみたいところです。</p>		

参加者からのコメント

(神田)

- ・単純な統計数値も、視点を定めて見てみると様々なものが見えてくるのが分かりました。一方で、視点を変えてみると、また別の面白いものが見えてくように思います。
- ・変化の原因の最大の要素は、多機能なスマホの浸透であることは異論が少ないと思いますが、多機能に伴う便利さと、トラブル時の影響の大きさを考えると、現状は少し行き過ぎていないかと心配するのは古典的な考えなのではないでしょうか？
- ・宮本さんの発信の要は、日本の電子産業の衰退理由の考察ですが、これは総ての産業にも当てはまるものと思います。構造変化、即ち製品メーカー主体から製品メーカーへは、今の東芝や三菱の苦境に直結していると思います。また、品種数の多さは、電子・電気製品のみならず、自動車などにも見られますが、細かな小手先の差別化に力を入れて、根本の改革に取り組まない体質を助長していったように思います。
- ・議論になったマーケティングの問題ですが、これもデータの見方次第で有効になりうると思います。小さな変化や異質なデータに目を向けて見ると、それが新たな製品や機能のヒントになると思います。宮本さんがされたような目で見れば・・・
 - ・また、大谷さんが指摘された人づくりの点ですが、かつて、「ソニーは人を生かす」と言われていましたが、その通りだったと思います。その人づくりが、お金づくりになってから衰退が始まったように思います。

(大谷)

宮本さんの発表は、嘗て”ものづくり大国”として肩で風を切って闊歩していた我が日本が、いつの間にかその勢いが衰えてきてしまっていて、最早”ものづくり超一流国”とはとても言い難くなってきている状況を、我々に思い起こさせてくれる貴重な機会だったと思います。

発表者からのコメントにもあるよう、「わが日本はどこで間違いを犯したのか？このような時代に何が企業にとって重要なのか？」については真剣に考え見る必要があると思います。かかる観点から、皆様にちょっと見ていただいたら良いのでは、と思われる Youtube の動画を下記に紹介いたします。

[サムソンの「強さ」は人材戦略からきている。その強さの秘密を人材戦略から探ります。 - YouTube](#)

嘗て 1980 年代に、私は、日本企業が韓国企業に負ける日などは永久に来ないであろうと思っていたのですが、今や、日本の主要電気企業が束になってもかなわない韓国のサムソンの大発展は、日本から技術をコピーしたり日本人技術者を雇用したりしたからだけではなく、日本企業の何倍もの必至の努力をして有能な人材を育成したことにあるのが分かります。日本企業もサムソンの真似をしるということではありませんが、一つの参考にはなると思います。

(松村)

非常にわかり易く明快に整理していただき、大いに勉強になりました。画像を扱う家電機器の移り変わりをみると、それぞれ高価な買い物だったのに、次々に使わなくなったことを思い出します。20 万円もしたフィルム一眼レフを買った時は非常に嬉しくて、重いのによく持ち歩いていました。望遠レンズは 210mm 程度でしたが長さが 15cm もあり、海外出張では大きな荷物になりました。今はミラーレス一眼レフかデジカメを使いますが、センサーが小さくても手軽なデジカメの方をよく使います。それでも約 900mm の望遠撮影ができます。価格は 4 万円ぐらいでした。

他の機器を見ても、2000年から20年間の変化が非常に大きいですね。日本の電子産業の衰退理由は4項目が指摘されていますが、私はその中の「日本のメーカーは独自の特徴を取り入れることに注力して国際標準からハズれる」「日本メーカーの品種数が多く、大量生産にならない」を気にしています。この2項目は、日本人の職人気質が影響しているように思われるからです。商人はマクロを重視し、職人はミクロを重視する傾向があると思います。違いますかね？（松村）

（持田）

日本の企業社会は狭い分野に多くの企業が集まり、その範囲で競争するため、携帯電話に限らずすべて狭い範囲での競争となっています。そのため近視眼的にしか物事が捉えられず、あらゆる分野でガラパゴス化が起きていて、世界から取り残されたのではないかと思います。

日本の長生き社会も問題ではないでしょうか。年寄りがいつまでも口を出し、政治家も年寄りが権力を持っていることも大きな問題です。大分前のことですが、好き嫌いの判断は別として、ホリエモンがフジTVの買収に動いたら寄って集って潰しに掛かる、ちょっと背伸びしただけですぐ出る杭は打たれるの状況です。

新聞もテレビ業界も全く進歩がありません。どこのニュースもみな同じ、7時のNHKニュースの始まりが火事のニュースとは！

若者の海外志向も萎えてきているようだし、先行き暗いですね。

日本のどこかにイーロンマスクはいませんか？

（山崎）

- 今月のテーマ「小型家電の栄枯盛衰」では、液晶、半導体、太陽電池、携帯電話など、1990年代まで日本が得意とした多くの電子産業が、デジタル化の大波に曝され、この30年間に急速に世界シェアを失い、赤字化していった実態が簡潔に纏めてられています。特に、情報多機能モバイル端末 iPhone の出現が、日本企業が得意としたデジカメ、オーディオ、ケイタイ、パソコンの市場を大きく変え、情報多機能モバイル端末の内部に取り込まれてしまった実態が統計的な数字を含めて解りやすく紹介されました。
- 2000年からの約10年間、インターネットの急速な普及により、“情報財革命”をビジネスに持ち込む新しいビジネスモデルが確立していきました。現在、世界を席巻している”GAFAM”は、インターネット社会を先取りし、情報財の価値を“金”に変えていくイノベーター達です。“日本のものづくり”は情報財の価値革命の前に大きく遅れをとりました。
- 一方、日本の得意とした製造分野では、台湾、韓国、中国などアジア勢が、世界の製造工場として低コストでの組み立て型の産業を大きく育てました。その結果、日本の家電各社は、多くが海外に工場を持ち、安い海外生産のモジュール部品を組み合わせ、品質管理に優れた現場で完成品とするビジネスモデルへと変化しました。収益性も平均で4%台へと悪化しました。
- 2020年11月の当研究会で、私は「甦れ日本の半導体産業：日本の電子産業の復活を願って」と題する報告させていただきました。そこでは、「デジタル情報革命の取り込み」、「新しい技術とそれを生かすビジネスモデルの創造」、および「市場変化を先読みしたトップマネジメント」の重要性を訴えました。
- 先月、老舗のオーディオメーカーの ONKYO が業績悪化のため自己破産を申請しました。嘗て、30年前、国産オーディオを牽引した、ONKYO、パイオニア、山水電気が姿を消しました。これと対照的に、嘗てアナログプレーヤー向けのカートリッジを販売していたオーディオテクニカは、ヘッドフォン製品に活路を見出し、スマホ時代にマッチした多彩な商品展開に成功しました。

- ところで、このところ記録的な円安が続き、その要因の一つに日本の産業競争力の低下が指摘されています。日本の貿易額は、輸入と輸出が年間約 80 兆円で推移していますが、日本の主力輸出品目は、2021 年ベースでは、自動車 14.2 兆円、電気機器 15.2 兆円、鉄鋼 3.8 兆円となっています。
- 輸出統計を見ると、米国、中国向けを中心にアルコール飲料（日本酒、ウイスキー）、ホタテ貝、牛肉など、農林水産物・食料の輸出が好調で、2021 年の輸出総額が 1 兆 2385 億円と初めて一兆円を超え、前年比 25%増しと急増しました。農林水産省は 2025 年に 2 兆円、2030 年に 5 兆円を目指しています。国を超えた通販サイト、物流システム、冷凍化技術の革新等により、今後の更なる国際販路の拡大が期待されると思います。（山崎）

（猪股）

宮本さんの長年の銀塩写真関連の職務経験の中で感じ取られた、一つの製品が勃興から隆盛、停滞、衰退に至る過程・歴史の見方に基づいた、小型家電製品の商品としての歴史を通して、日本の今後の、新しい製品開発、あるいは、技術戦略をどのように気づき上げていくべきかという事についての提言、大変興味深く聞かせていただきました。確かに、かつて、日本は、そうした新製品開発・技術革新の担い手として、世界に先駆けていることによって、評価される国だったのが、今は、とてもそういうふうには思えない事がどうして起こったのか？何が変わってしまったのか？何を換えれば、少しでも、元に戻せるのか、と言った議論こそが、今、必要なのだと思います。

	<p>2. 幹事会報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育関係は、公開講座開始、化学工学入門は7/1～7/15、安全講習は9/7を予定 ・新幹事が増えたこともあって、HPの研究会活動のアップデートがされていない会があり、HP編集の講習会を開催している。 ・各グループの活動のダイジェスト（A4一枚以下）をHPに掲載する件は、誰でも見れる活動報告の神奈川研究会に掲載し、「詳細は会員ページ」と注釈をつけ、会員ページアーカイブには従来通りの議事メモをアップロードする。 ・HPの神奈川研究会議事録がうまく表示されない件は、リンクを張った文字列が「開催回と開催月」の項か「演題」の項かの設定の乱れに起因していることがわかった。会員ページのアーカイブではそのような問題は起こっていない。 <p>3. 今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> 7月 大谷氏 8月 松村氏 9月 神田氏 10月 見学会 11月 持田氏 12月 小林氏 1月 山崎氏 2月 猪股氏 3月 飯塚氏 4月 西村氏 5月 見学会 6月 宮本氏
次回日程	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日時 令和4年7月12日（火）15時～17時 2. 場所 かながわ県民センター 3. 技術課題 大谷氏から提供
次々回日程	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日時 令和4年8月9日（火）15時～17時 2. 場所 オンライン 3. 技術課題 松村氏から提供